

甲 第 号

胡 英浩 学位請求論文

審 查 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

報告番号	甲第号	氏名	胡英浩
論文審査担当者	委員長	教授	中島 祥介
	委員	准教授	東条 尚
	委員	教授	谷口 繁樹
	(指導教員)		

主論文

Gelatin Sealing Sheet for Arterial Hemostasis and Anti-adhesion in Vascular Surgery: a Dog Model Study

心臓血管外科領域におけるゼラチンシートの止血効果、癒着防止効果の検討

Yinghao Hu, Keigo Yamashita, Nobuoki Tabayashi, Takehisa Abe,
Yoshihiro Hayata, Tomoaki Hirose, Shun Hiraga, Takashi Tojo,
Shuko Suzuki, Yoshito Ikada, Shigeki Taniguchi

Bio-Medical Materials and Engineering

(2014 September 9. in press)

論文審査の要旨

本研究の目的は、心臓血管外科領域における止血効果および癒着防止効果に対する独自に開発したゼラチンシートの新規医療材料としての有効性を評価することにある。

ビーグル犬を用いて、全身へパリン化後に大腿動脈に 23G 針にて針穴を作製し、新規作製ゼラチンシートと既存のフィブリン製剤の 5 分間圧迫後の止血効果を比較検討。さらには術後 4 週目の同手術部位における癒着強度、癒着面積を Zuhlke 法によりスコア化して癒着防止効果を比較検討している。

その結果、新規作製ゼラチンシートはフィブリン製剤と比較して、同等の止血効果を有すること、さらには有意に良好な癒着防止効果があることを明らかにしている。

これらの結果から、新規作製ゼラチンシートは血漿分画製剤であるフィブリン製剤よりも安全性が高く、心臓血管外科領域において癒着防止効果を併せ持つ有効な止血材料となる可能性が考えられ、有意義な研究と評価される。

参 考 論 文

1. 心外膜格子状切開術(waffle procedure)とステロイド治療が奏功した IgG4 関連心外膜炎の 1 例

山下慶悟、阿部毅寿、多林伸起、吉川義朗、早田義宏、廣瀬友亮、
平賀 俊、亀田陽一、胡 英浩、谷口繁樹

日本心臓血管外科学会雑誌 41(2):95-98, 2012

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに心臓血管外科治療の
進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 27 年 3 月 6 日

学位審査委員長

消化器機能制御・移植医学

教 授 中島 祥介

学位審査委員

循環・呼吸機能制御医学

准 教 授 東条 尚

学位審査委員（指導教員）

循環・呼吸機能制御医学

教 授 谷口 繁樹